

**主 題：主の御旨の沿った女性たち2**

聖書箇所：テトスへの手紙 2章3-5節

今賛美したように「みふみ（聖書）、みふみ、我が母の読みしみふみ、紐解くごとに我思い出す 主のしもべなりし母を」（聖歌353）、このような母を得た私たちは本当に感謝な者たちです。母に、また、神に感謝するとともに、その母から教えられたことをしっかりと守っていくことを考えさせられる讚美歌です。パウロが私たちに教えていることは、そのような母になりなさい、そのような女性として成長をして行きなさいということです。先週、私たちは年配の女性たちに対しての神の教えを見て来ましたが、途中で終わってしまいました。しかし、これは女性たちにとって非常に大切な学びであるゆえに、私たちは今日もその続きをぐいっしょに学んで行きたいと思えます。しかし同時に、ここに集っているすべての皆さんにとって、このみことばが教えることは同じように大切です。パウロが言わんとしたこと、神ご自身が女性に、そして、私たち一人ひとりに望んでおられることは同じことです。ひと言で言えば「信仰において成長しなさい」ということです。

信仰の先輩である婦人たち、彼女らには大きな責任があるとパウロは言いました。後に続いて来る者たち、それが自分の家庭であろうと教会であろうとどこであろうと、彼らにすばらしい模範を示すような霊的な婦人として成長して行くように、成長し、そして、模範となりなさいと、これがパウロがこのテトス2章3節で教えたことでした。思い出してください。パウロは年配の女性たちは主に対してこのような四つの責任があると教えています。

**A. 主に対する責任 3節****1. キリスト者にふさわしい行ない**

神の恵みによって救われたあなたは救われた者にふさわしい行ないを為すようにと、パウロは行ないを強調しました。どのように生きて行くのか、クリスチャンとしてふさわしい行ないを為すようにと。

**2. キリスト者にふさわしいことば****3. キリスト者にふさわしい心**

神しか本当の満足を与えてくれません。神だけが本当の満たしを与えてくれるのです。

**4. キリスト者にふさわしい忠実さ**

神から与えられた責任を忠実に果たし続けて行きなさいと。

そのことをパウロは3節で、まず、信仰の先輩である婦人たちに教えました。

**B. 若い女性たちに対する責任 4-5節**

ここには若い女性たちに対する責任が記されています。今まだ子育てをしている皆さんにこのようなことを教える訳です。パウロが言いたいことは、あなたたちの先輩を見てご覧なさい、信仰の先輩として歩んで来た皆さんを見てご覧なさい。彼らが実践して来たこと、また、彼らが教えてくれること、そのことをしっかりと覚えて、その信仰に倣っていきなさいと、パウロは七つのことを上げています。

**1. 夫を愛する 4節**

年配の婦人たちはそのように歩んで来たのです。自分の夫を愛して、夫を敬って歩んで来た。それを見てあなたたちもそうしなさい、それが神が望んでいることだと言います。そして、あなたがそのように歩んで行くなれば、神はあなたを祝しあなたを用いてくださり、そして、あなたの夫も大いに祝され用いられると言うのです。

**2. 子どもを愛する 4節**

子どもへの愛を実践するために三つのことを言います。

**1) 主の愛に倣う**

私たちは子どもが何人いようと彼らを公平に平等に、しかも、無条件で愛します。自分の理想通りの子どもだから、自分の言うことをよく聞く子どもだから、自分が誇ることのできる子どもだから愛し、そうでない子は愛さないという偏った愛は主ご自身の愛ではありません。私たち一人ひとりを同じように愛して下さったその主の愛に倣って愛するようというのです。

**2) 主の懲らしめに倣う**

今、愛のことを話していますが、私たちが愛について考える時に「懲らしめ」も考えなければいけないのです。懲らしめも実は愛だからです。子どもが罪を犯した時、その子を愛するゆえに、子どもを矯正して行くことが愛だと聖書は教えます。罪を黙認するではありません。間違ったことに関しては、

それを正しく矯正していかなければいけません。それが愛だと聖書は教えます。箴言 3 : 11 に「わが子よ。主の懲らしめをないがしろにするな。その叱責をいとうな。」とあり、12 節にも「父がかわいがる子をしかるように、主は愛する者をしかる。」とあります。ですから、神の愛を見ると、神は私たちを愛するゆえに、私たちが間違った時、罪を犯した時にそれを見て見ぬ振りをされるのではなく、必ずその罪に対して懲らしめを与えられます。それは私たちが正しい方向に歩んでいくためです。ヘブル人への手紙 12 章にもそのことが記されています。6 節「主はその愛する者を懲らしめ、受け入れるすべての子に、むちを加えられるからである。」、主は私たちを愛するゆえに、私たちが罪を犯したときにむちを加えると言います。10-11 節にも「なぜなら、肉の父親は、短い期間、自分が良いと思うままに私たちを懲らしめるのですが、霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです。:11 すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。」とあり、何を言っているのかははっきりしています。

私たちを愛してくださっている主ご自身が、私たちを愛するゆえに為してくださること、それは私たちが神の前に罪を犯したら私たちを矯正されるということです。私たちが正しい方向に導こうと私たちが責められます。だから、私たちも子どもを愛するのであれば、子どもたちが間違っている時にはそれが間違いであることをしっかりと教えて正しい方向へと導くことが必要なのです。ですから、愛というのは甘やかすことではないのです。愛とは何でも良しとすることではないのです。わがままにさせることではないのです。それは愛ではありません。「子どもなのだから…、何をしてもかまわないではないか。まだまだ成長段階にあるのだから…」と、残念ながら、そのように言うのは世の中で、神は言いません。ですから、箴言のみことばは私たちにこのように教えてくれています。箴言 29 : 15 「むちと叱責とは知恵を与える。わがままにさせた子は、母に恥を見させる。」、また、29 : 21 にも「自分のしもべを幼い時から甘やかすと、ついには彼は手におえない者になる。」とあります。これはしもべのことですが、子どもも同じです。幼いときから甘やかしていると彼らが成長した時には手におえない者になってしまうと言うのです。残念ながら、そのようなケースを私たちは目にします。わがままにさせる、好きなようにさせるということは、大変大きな問題を経験することになります。なぜなら、わがままは大きな問題だからです。わがままとは自分の思い通りにふるまうことです。気ままに、欲しいままに、自分勝手に、自分の思いのままに生きるということです。だから、子どもの時から自分の思いのままに生きることを許されて来た人は、「従うこと」が非常に難しいのです。なぜなら、私たちは信仰を持った後も、神のみこころに従いたいという思いと、自分のやりたいことをしたいという、この二つの思いが心の中で綱引きをするからです。

子どもの頃からわがままに育てられた人は、その中であって神のみこころに従って行くことが、頭ではそれが必要だ、大切だと分かっていますが、なかなかその神のみこころに従順に従って行くことが難しくて容易なことではないのです。ずっと自分の思いのままに生きることを許されて来たからです。ある親は言います。「叱ってきました、悪いことをした時には叱かってきた。」と。でも問題は、叱られた子どもたちがなぜ叱られているのかをしっかりと分かっていたかどうかです。「このようなことはしてはいけない」と言われた時に、彼らは本当に「そうなんだ、だから叱られているのだ。」と分かったかどうかです。

私たちは神が託してくださった子どもたちを愛します。神が託してくれたのです。私たちの私物ではなくて神のものです。だから、私たちは神のみこころをしっかりと覚えて、託された子どもたちを神のみこころにそって育てていかなければいけないのです。神のみこころとは何ですか？神のことを教えて、彼らが神を愛する者として従って行くことです。ですから、私たちが子どもたちに教えることはルールです。ルールがあって、そのルールを犯した時には必ず報いがやってくるということです。みことばを見ると、私たちはいつもそのことを教えられます。神は言われました。「わたしの教えに従いなさい。従ったら祝されるし、そうでないなら祝福は来ない。」と。その通りのことを私たちはこの人類の歴史の中で繰り返し見て来ているのです。主に従った者たちは祝され、そうでなかった者たちは主のさばきを受けて来たのです。だから、私たちも子どもたちに教えなければいけないのです。「このようなルールがあるからこれはしてはいけません。それに触れた時には必ずそこに報いがある。」と。そのようにして、私たちは子どもたちに教えていくのです。「わがままは罪だ」と。どんなに幼くても彼らに教えていくのです。正しいことは正しい、間違っていることは間違っていると、選択には必ず結果が伴うということ、残念ながら、私たちはそのようなことを周りで見るのが余りありません。

本屋にはたくさん「子育て」に関する本が並んでいます。しかし、残念ながら、神のおことばに基

づいた子育ての本は店頭には並んでいないのです。でも、心配する必要はありません。私たちの手にみな持っています。この聖書が私たちにその知恵を与えてくれるのです。少なくとも、今私たちが分かったことは「わがままにさせてはいけない」ということです。しっかりと教えていかなければいけないのです。彼らの間違っただけに対しては徹底して彼らが理解できるように教えていかなければいけないのです。矯正して行かなければいけないのです。これは過ちである、間違いであると教えていかなければいけないのです。なぜなら、主は私たちを愛するゆえに、我々の過ちに対してそのように教えてくださるからです。正しい方向に戻っていくようにと。それが私たちの責任だということです。

### 3) 主のみわざに倣う : 教えを実践

・**主イエス**：主イエス・キリストがこの地上におられたときに何をなさったのか思い出してください。立派な教えを説かれたと皆さんはそうに言われるかもしれませんが、でも、イエスご自身のおことばを聞くと主はこのように言われました。ヨハネの福音書 17 : 6 「わたしは、あなたが世から取り出してわたしに下さった人々に、あなたの御名を明らかにしました。彼らはあなたのものであって、あなたは彼らをわたしに下さいました。彼らはあなたのみことばを守りました。」と告白しています。同じ 17 : 26 には「そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。それは、あなたがわたしを愛して下さったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです。」と書かれています。「御名を知らせました。」「御名を明らかにしました。」とはどういうことでしょうか？イエスの名前を人々の前で明らかにしたのですか？違います。これは父なる神がどういうお方かをイエスが明らかにしたということです。つまり、イエスがこの地上にいた時にイエスが為さったことは、父なる神がどのようなお方を明らかにすることでした。

そうすると私たちも同じです。私たちも主のなさったことに倣うなら、私たちも人々の前で、愛する者たちの前で、私たちの神がどのようなお方かを明らかにするのです。特に、今このみことばの中では「子どもたちに」と言っています。私たちの責任は子どもたちに私たちの信じる神がどのような神であるかを明らかにしていくのです。神について教えなければいけないのです。そして、私たちもよく耳にするのは、目を開いてみたら、周りを見渡してみたら、いろんな機会にいろんな所で神について話ができるという声です。例えば、公園に行くそこには神の創造されたものが溢れています。そこで、それらをお造りになった創造主なる神について語るができます。でも、そのためには私たちがそのような心づもりをしていなければなりません。私たちがいつもそのことを考えていなければ、神がくださったその大切な時間も無駄にしてしまいます。今日どこかに散歩に出かける、公園に出かける、旅行に行く、その一瞬一瞬、私たちは様々なものを通して創造主なる神のことを伝えていくことができるのです。

主イエス・キリストは父なる神のことを人々の前で明らかにしたのです。私たちの責任も、皆さんの責任も同じです。あらゆる機会を通してこの神を明らかにするのです。特に、神が託して下さった子どもたちの前で、この神がどんなにすばらしい方であり、どんなに偉大なお方であるかを明らかにしていくのです。

・**パウロ**：彼もこのように言っています。使徒の働き 20 : 20 「益になることは、少しもためらわず、あなたがたに知らせました。人々の前でも、家々でも、あなたがたを教え、」と、また、同じ 27 節でも「私は、神のご計画の全体を、余すところなくあなたがたに知らせておいたからです。」と、つまり、パウロも出て行く所々で人々にとって益となることを話し続けたと言うのです。なぜ、そのようなことをしたのか？彼らを愛するからです。まだ、このイエス・キリストの救いを知らない人たちがいたなら、彼らに一番益になることは「救いのこと」です。ですから、パウロはその救いのメッセージを語り続けたのです。神がどんなに偉大な方であるかということ語り続けていったのです。

皆さん、私たち親は託された子どもたちにしっかりと最も大切な創造主なる神のことを教えていくのです。私たちは何のために造られ、生かされ、そして、今日が与えられているのか、しっかりとそのことを子どもたちに伝えていこうとするのです。人生の目的を伝えていくことです。創造主なる神を愛し、この方を喜ばせるためには何をすれば良いのかを伝えていくことです。それをことばをもって、そして、模範をもってです。当たり前です。私たちが世の中と違う価値観、目的をもって子どもたちを育てていくのです。私たちが神の前に立った時に、神が私たちに託して下さった者を私たちがどのように導いて来たのか、そのことを神は問われます。

皆さん、非常に厳しいことを今言わなければいけないのですが、私自身にもこのことを言います。たくさんクリスチャンホームがありますが、その子どもたちはどこにいますのでしょうか？その子どもたちは今どこで、今どこに向かっているのでしょうか？ある人が「クリスチャンホームの子どもたちが一番問題だ。」と言いました。考えなければいけないことです。聖書は私たちに、特に、この箇所でも「子ど

もたちを愛しなさい」と言いました。私たちは子どもたちのことを愛しています。皆さんはこれまで一生懸命ベストだと思えることをやって来ました。そして、ある子どもたちは神を愛する者として成長し、ある子どもたちはあなたが愛する神から離れてしまいました。今私たちが考えてみなければいけないこと、そして、もう一度吟味してみなければいけないことは、私たちの責任はきちんと果たしたのかどうかということです。ことばをもって私たちは神の話をし、そして、私たちの模範をもって彼らにこの神のことを示して来たのか、教えて来たのか？

今ここで話を終わると、皆さんに罪悪感だけを与えて、皆さんは暗い気持ちで今日お帰りになるかもしれません。そんなことがあってはならない。皆さん、確かに、私たちは振り返ってみて「こうしておけば良かった、このようにやっておけば良かった」といろいろな後悔があります。でも、残念ながら、私たちは過去に戻れないのです。パウロがこの年配の婦人たちや若い人たちに、そして、最初に話したように、みなに言ったことは何か？「信仰において成長しなさい」ということです。ということは、あなたが天に召されるまで、その時まで、私たちは地上にあって信仰の成長を神から求められるのです。そして、過去を振り返って、例えば、母親として、父親として、祖母として祖父として、どこか間違っていることがあったとしたら、そのことを子どもたちの前で明らかにして「お父さん、間違っていた、お母さん、間違っていた。このようにして育てるべきだった。聖書からそう教えられたのにお父さんはそのようにして来なかった。赦して欲しい。そして、これからお父さんはこういうふう生きていきたい。これからお母さん、こういうふう生きていきたい。」と、そのように私たちが告白すること、それは自分が神の前に喜ばれる者になりたいからです。自分が神の子どもとして成長して行きたいからです。神があなたや私に望んでいるのはそこなのです。後で私たちは見ますが、私たちは人を変えることは残念ながらできないのです。愛する子どもたちであったとしても、愛する孫たちであったとしても、皆さんがどんなに頑張ってもできません。でも、神が働く時に変わるのです。でも、神に働いていただくとするなら、まず、あなたのうちに神に働いていただいて、あなた自身が変わられていくことです。それがなければ、どうして神はあなたを通してみわざをなされますか？そこからののです。

そして、それをあなたが実践なさる時に確実に約束できること、それは神があなたを通して働きを始められるということです。なぜなら、イエスを信じたその時から神はあなたを主イエス・キリストに似た者に変えようとしているから、そして、あなたがそのことを望むだけでなくあなたが神の前に正しいことを選択してそのように生きていくなら、その働きは益々あなたを通してなされていくからです。あなたがイエスに似た者に変れれば変えられるほど、あなたは主によって用いられ続けていくからです。だから、過去を振り返って、そして、いろいろなことを思い浮かべて自分自身にいっぱい罪悪感を背負わせて、「だめだった、失敗した！」と言ってそこで立ち止まるのではないのです。私たちは前に向かって進んでいくのです。神に期待しながら「主よ、私はいろんな面で失敗し、いろんな面で不完全でした。そして、これからもそうかもしれないし、そうだと私は確信します。でも、私はあなたに喜ばれることをしたいし、あなたによって変えられていきたい。あなたの栄光を現わす者としてもっと用いられたい。だから、どうぞ私を変えていてください。」と願うのです。そのとき、神はあなたを使っていけます。そこに希望があるのです。希望は神なのです。その神に私たちがすべてを託して神に働いていただくまで、私たちは希望など持つことはできないのです。

私たちが希望を持つように努力するのではありません。希望の主から希望をいただくのです。神が働いてくださるから希望を持てるのです。そのような歩みをあなたも今日から始めていくことができるでしょう。今日から主が喜んでくださる母として成長する決心をして、そのようにみことばに従って行くことです。神の前に失敗したと示されたなら、それをオープンにして、そして、正しく歩んでいくことです。それが神が私たちに望んでいることです。「子どもを愛しなさい」、彼らにとって一番大切なこの神のことを私たちは証して行くのです。そのためにはあなたがこの神を心から愛していること、この神があなたにとって一番であることをあなたが示さなければ、彼らはどのようにしてそのことを学んでいきますか？口で言うこととやっていることが違えば、彼らはその神に従うことをしません。パウロは言いました。「子どもを愛しなさい」と。

### 3. 慎み深く 5節

「節度がある、分別がある」という意味です。自制心を持つという意味です。つまり、パウロはここで、神の前に何が正しいかを考え、そして、正しい判断を為す者となりなさいと言っています。どんな時でも何が神の前に正しいのか、神が何を喜びになることかを考えて行動できるような人になっていきなさいと言うのです。箴言 17 : 27-28でソロモンはこのように言っています。「自分のことばを控える者は知識に富む者。心の冷静な人は英知のある者。:28 愚か者でも、黙っていれば、知恵のある者と思わ

れ、そのくちびるを閉じていれば、悟りのある者と思われる。」と。また、同じ箴言 15 : 1 には「柔らかな答えは憤りを静める。しかし激しいことばは怒りを引き起こす。」とあります。人からきついことを言われたとして、きついことを言い返せばそこに生じるのは争いです。経験されたことがあるでしょう？ 売りことばに買いことばとって、私たちが感情的に何かいやなことを言われた時に感情的に言い返しているなら、そこには争い以外の何もありません。ですから、みことばは言うのです。「柔らかな答えは憤りを静める。」と。相手が怒っている時に同じように感情的になってしまうなら、問題は解決しません。しかし、あなたが冷静に話をすることによって相手の態度は変わって来ると、ソロモンはそうに言ったのです。

今、私たちが見ているように、いったい何が正しいのかを判断できる人だから「柔らかな答え」ができるのです。いろいろと辛いことを言われた時に、私たちの肉はそれに対して「こう言いなさい、ああ言いなさい」と感情的に言います。でも、神の知恵をもらっている者は、どういうことを言うべきか、また、どのように言うべきかを考えることのできる者です。だから、同じ箴言 15 : 2 3 に「**良い返事をする人には喜びがあり、時宜にかなったことばは、いかにも美しい。**」と書かれています。言うべきときに言うべきことをふさわしい言い方で言える人、神は私たちが信仰の成長とともにそのような人に変えて行ってくださいます。

ですから、パウロはここで「**慎み深くありなさい。慎み深さにおいて成長しなさい。**」と言うのです。伝道者の書 10 : 1 2 に「**知恵ある者が口にすることばは優しく、愚かな者のくちびるはその身を滅ぼす。**」とあります。

#### 4. 貞潔 5 節

聖さです。自分自身を聖く保つだけでなく、人に誘惑を与えない人になるということです。パウロは I テモテ 2 : 9 - 10 で「**同じように女も、つつましい身なりで、控えめに慎み深く身を飾り、はでな髪の間とか、金や真珠や高価な衣服によってではなく、むしろ、神を敬うと言っている女にふさわしく、良い行ないを自分の飾りとしなさい。**」と言います。聖くあれ、誘惑を与えるような人であってははいけないと言います。

#### 5. 家事に励む 5 節

これは「家」ということばと「働き」ということばが合成してできたことばです。家の中で働くということです。聖書は女性には大変な、そして、非常に大きな務めが与えられているということを教えています。家庭における働きです。家における働きです。でも、それに反対する考えはこの世に出て来てもう何十年も経ちます。女性にも才能があります。男性よりも能力があります。だから、社会に出ると。確かに、能力があります。才能もあるでしょう。決断力も優れているかもしれません。でも、聖書はそうに教えていないのです。聖書が言っていることは、女性たちには家庭において大切な務めがあるということです。なぜなら、みな知っているように、子どもを育てていくことは大変な務めだからです。そして、これほどすばらしい働きは他にないと言えるほど、神がすばらしい働きを女性に与えてくださったのです。神が託した子どもたちを、みことばに基づいて教えていくのです。彼らが神を愛する者として成長して行くように教えていくのです。すばらしい働きを神は、特に、女性たちに与えてくださったのです。神は様々な目的をもって私たちが造られました。女性には家庭という家族に大きな影響を及ぼす責任の場所を託されたのです。

#### 6. 優しい 5 節

「正しい、立派な」という意味をもったことばです。どんな人でも例外なくすべての人に対して、思いやりとあわれみをもって、彼らに良いことを為していくということです。エペソ 4 : 3 2 には「**互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。**」と書かれています。親切な人になりなさい、優しい温和な態度のことです。しかも、「**心の優しい人**」とあります。つまり、同情やあわれみを現わすという意味です。人々のことを理解しようと努力を払う人のことです。忍耐深く親切な行動を示していくのです。感情的に行動してしまうのではなくて、このように同情やあわれみにおいて、大人として親切な行動を示して行くようにと言うのです。

#### 7. 夫に従順 5 節

最後に、「**自分の夫に従順であるようにと、さすことができるのです。**」とあります。この「従順」ということばは「**何らかの権威の下に自らを置く**」という意味です。聖書は、妻に対して夫に従っていきなさいと言います。もちろん、罪が強要された場合を除いてのことです。しかし、世の中はそのようなこと、つまり、自らが進んで夫の下に自分を置くなどということは、何か損な生き方のように言います。なぜなら、世の中の背後に存在しているのはサタンだからです。なぜ、このことが大切なのでしょう？

なぜ、夫に従順に従うことが必要なのでしょうか？これは神のみこころだからです。エペソ5：22には「妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。」とあります。

ただし、この「従順」というみことばに関して、教えに関して、誤解していることがあります。

### ◎誤った従順

(1) 黙従：ある人たちはこの「従順」とは黙従、ただ黙って従うことと思っています。あたかも奴隷のように、妻は何も言うてはいけない、しかも、自分の考えを持ってはいけないとそう思っている人がいます。残念ながら、それはここで教えられていることではないのです。当然、女性も考え、祈り、みこころを求めていきます。しかし、最終的な判断はその家庭にあって夫が決めて、妻は夫の決断に従って行こうとするのです。だから、何も考えてはならない、何も言うてはならないということではないのです。

(2) 表面的従順：表面的な従順が確かに存在しています。表向きは従順だけれど…。このケースの場合、女性たちは一生懸命自分の夫を変えようと努力しています。というのは、夫が変わることによって自分たちは幸せになると思っているからです。ですから、そのような思いを持っているいろいろなことをしようとします。それもここで教えられている従順ではないのです。

また、もう一つ言えることは、このようなケースです。夫のことを非常に愛する妻だと思いますが、余りにも愛し過ぎて過保護になっているケースです。例えば、子どもに対してもそのようなことがあります。子どもに過保護な親は、子どもが失敗することを避けようと一生懸命前もっていろいろなことをしようとします。だから、子どもはいつまで経っても学ぶことができないのです。失敗を通して学ぶことが多いからです。同じように、夫が何か決断することに対して、余りにも干渉し過ぎるゆえに、間違ったことをしないようにと、前もって一生懸命過保護になって、夫が失敗しないように、困らないように、苦しめないようにと夫に代わってしてしまうのです。ここで教えられている「従順」とはそういうことではないのです。

感謝なことに、クリスチャンの家庭なら、二人そろって神のみこころを求めることができます。話し合うことができます。そして、感謝なことに、みこころは二人に示されます。もし、あなたの伴侶がクリスチャンでないなら、少なくとも、あなたはみことばに沿って、前回も見たように、その教えに沿って夫に従う者として、夫を支え、夫を誇りながら歩いていくことです。

パウロは、このようなことを具体的にここに表わしてくれました。というのは、ここで彼が教えた霊的に成長した者たち、また、一人ひとりの信仰者が歩いていく目標が漠然としているなら、自分がどのように歩んでいるのか、その目標に向かってどこまで近づいているのか見ることができません。だから、パウロは非常に具体的に、どのように神が望んでいるのかということを示したのです。だから、私たちはこういうことを目標に生きていくのです。ここで教えられていることを私たちが実践するように私たちは歩いて行くのです。なぜ、それが大切なのでしょう？最後にその目的を見てください。

### C. その目的 5節

このように生きるその目的です。5節の後半に「それは、」とあります。このあとに「結果」が記されています。「神のことばがそしられるようなことのないためです。」と。「そしられる」とは「悪口を言われる、ののしられる、冒瀆される」ということです。神のおことばについて人々から悪口を言われるような機会をあなたは与えてはならないということです。皆さん、私たちは大きな責任を神の前に負っているのです。私たちはこの世にあって、神がどんなにすばらしいお方であるかということを証して行くのです。不完全な私たちでも、神は私たちを使ってくださって、神がどんなに偉大な方を世に証してください。でも、そのためには私たち一人ひとりがどのように歩いていくのかをしっかりと吟味して、正しく歩み続けていくように神の助けをいただきながら歩いていかなければいけません。ここでパウロが言っていることは「年配の婦人たち、あなたたちは益々信仰者として信仰の成長をはかり、このようにすばらしい模範を示して行きなさい。若い人たちも彼らの生き様を見て同じように生き、そして、このような人として成長しなさい。」ということです。でも、もし私たちがそのようなことに反する生き方をしているなら、周りの人々はこのように言います。「彼らが語っている神はたいしたことないね。神のことばだと言っている聖書なんて他の本と同じではないか。」と。

神によって生まれ変わったのは私たちです。それなら、皆さん、生まれ変わらせてくださった神を世に証する者として生かされている私たちが、その役割を十分に果たしていかなければいけません。だから、神の助けが必要なのです。「私は強い信仰者です」なんて言える人はここにだれ一人としていません。却って「私は弱い罪深い愚かな者です」という人たちが集まっています。そのように言わなくても神は知っています。そして、神はこんな命令を私たちに与えてくれたのです。それは、あなたがこ

のような歩みを為していくことができるし、このようなことを神はあなたを通して為そうとしているからです。だから、私たちに必要なことは「神さま、あなたのみこころはよく分かりました。あなたがどのようなことを望んでおられるのかよく分かりました。私はそのみこころに沿って生きていきたいです。どうぞ、あなたの恵みを与えてください。助けを与えてください。私を変えていってください。」と、その決意をもって、その正しい選択をもって歩んでいかれることです。あなたの家族はあなたを見ています。あなたの周りの人たちはあなたを見ています。あなたがどんなふうに行動するのか、あなたがどのように周りの人々と接するのか、あなたが会社の人々とどんなふうに話をするのか、どんなことに興味を示すのか、どのような会話をするのか、どのようにあなたが生きるのかを彼らは見ているのです。そのことを考えると私たちは恐ろしくなります。だれとも会わない方がいいのではないかと。でも、神はあなたを世に送り出してくださるのです。神の助けとともに…。

だから、皆さん今日、これから出て行く時に「主よ、私はあなたが望んでおられるような人になりたいです。この世にあって、あなたの神さまってすごいね！あなたの神さまって素晴らしいね！あなたが信じ教えている聖書って素晴らしいね！と言われるようにしたいです。」と、人々がそのように口にするような、そのような信仰者としてあなたは神によって用いられるのです。だから、「使ってください、私を変えていってください」という決心をもって世に出て行かれることです。「主よ、あなたが約束してくださったこと、それが私の上になりますように。少しでもあなたに喜んでいただける、そして、世にあなたのすばらしさを証することのできる信仰者として、私をこの一週間、いや今日使ってください！」と、その決心をもって歩んでください。その決心をもって今日出て行ってください。神はあなたをそのように祝して用いてくださるからです。そうして、私たちはイエスにお会いする日までを過ごしていくのです。キリストのすばらしさを証する者としてこの日を歩んでください。

#### 《考えましょう》

1. 子どものわがままを許すことは、どうして聖書の教える「愛」ではないのでしょうか？
2. 子どものわがままを矯正するための良い方法を挙げてください。
3. 信仰者として成長するためにはどうすれば良いのか教えてください。